

各展示施設の説明・案内・質疑応答

■ 各展示施設の説明

1 施設概要

札幌市民防災センターは、地震体験コーナーや消火体験コーナーなどを備えた施設であり、各種災害の模擬体験を通じ、防火・防災に関する知識や災害時の行動を学ぶことができる。

(1) 構成

1階と2階には、『見て、触れて、体験し、学ぼう』をコンセプトにした11のコーナーがある。

① 体験コーナー (1階)

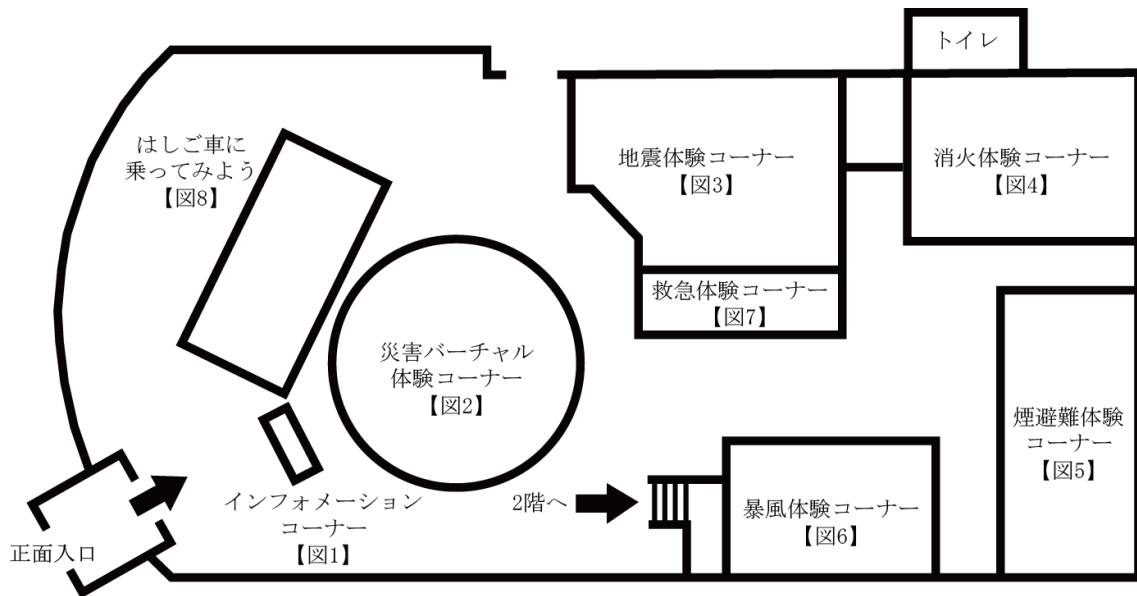
- ア インフォメーションコーナー (受付)
- イ 災害バーチャル体験コーナー
- ウ 地震体験コーナー
- エ 消火体験コーナー
- オ 煙避難体験コーナー
- カ 暴風体験コーナー
- キ 救急体験コーナー
- ク はしご車に乗ってみよう

② 展示コーナー (2階)

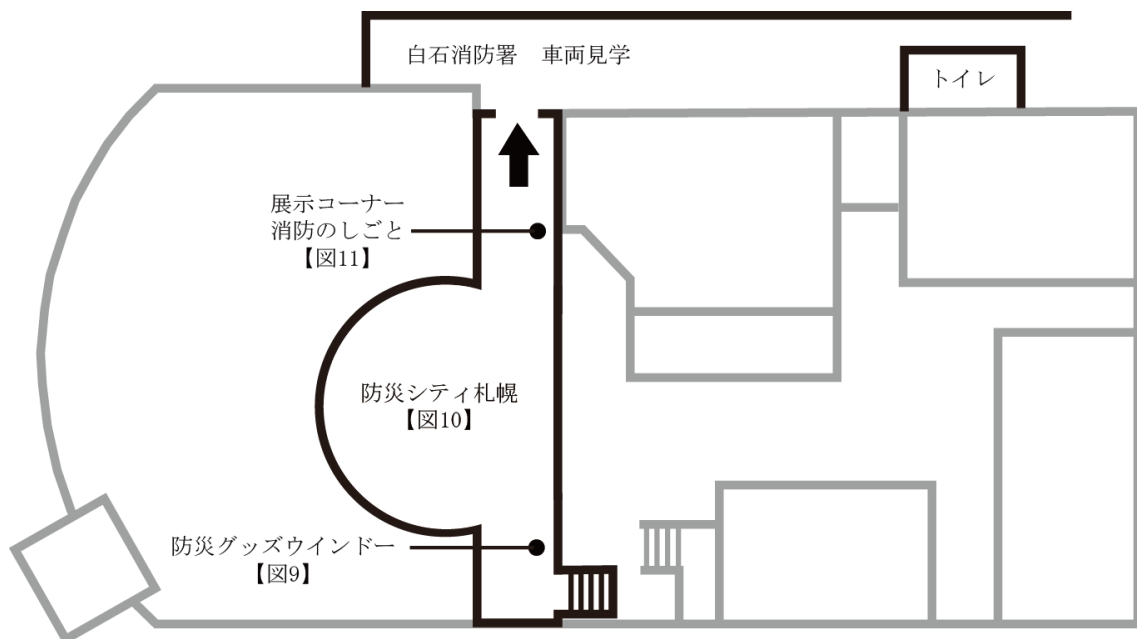
- ア 防災グッズウィンドー
- イ 防災シティ札幌
- ウ 消防のしごと

(2) 配置

1階平面図



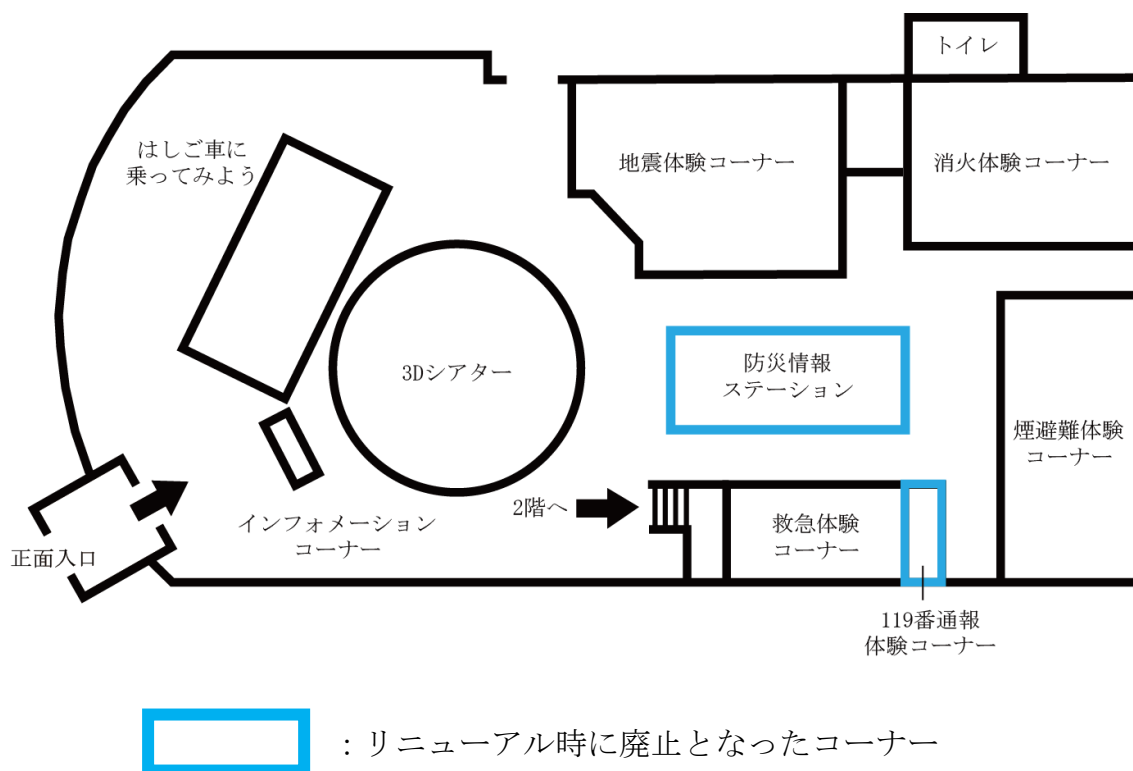
2階平面図



(3) 変遷

2003年(平成15年)3月14日にオープンし、2013年(平成25年)3月11日には、1階部分のレイアウトの変更や新コーナーの新設、既存コーナーの一部更新を行い、リニューアルオープンした。

① オープン (2003年(平成15年)3月14日)



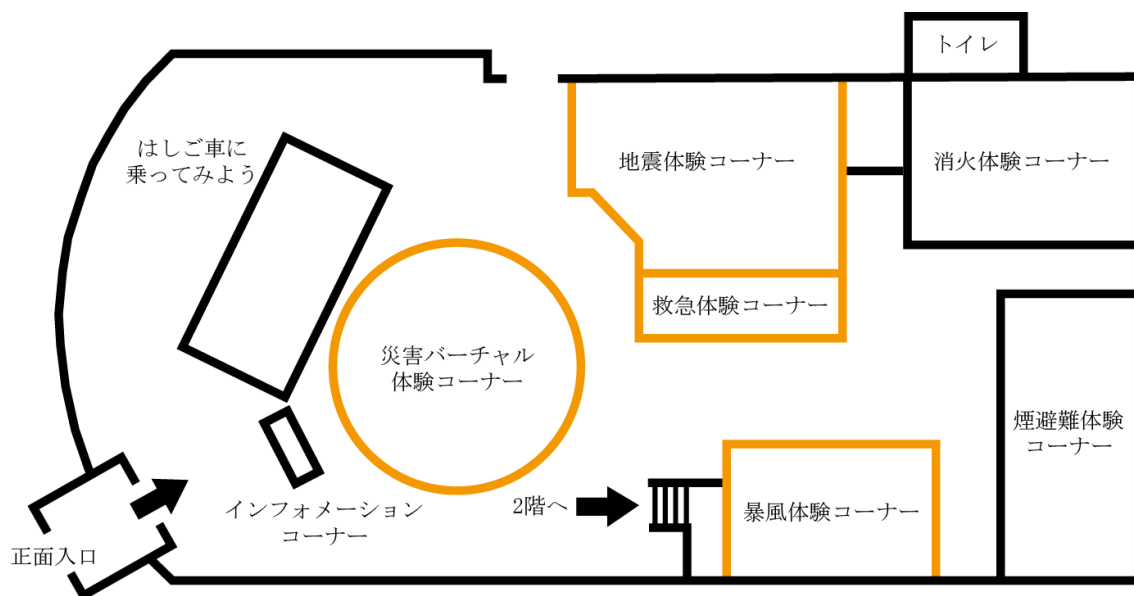
・ 防災情報ステーション




・ 119番通報体験コーナー



② リニューアルオープン（2013年（平成25年）3月11日）



 : リニューアル時に新設または一部更新されたコーナー

・ 救急体験コーナー

(旧)



(新)



【変更】コーナーの移動、モニターの増設、AEDの設置

・災害バーチャル体験コーナー
(旧)



(新)



【変更】 内容変更、送風機の増設、照明の変更、操作方法の変更（無線）

・地震体験コーナー
(旧)



(新)



【変更】 震度変更、内装の変更、プロジェクターの設置、モニター増設

・暴風体験コーナー（新設）



2 体験コーナー

(1) インフォメーションコーナー（受付）

受付カウンターで来館の手続きを行う。

モニターでは札幌市の火災や出動状況などの情報を得ることができる。

インフォメーションコーナーの前では、消防の活動服を着ることができ、またヘルメットをかぶることができる。

スタンプコーナーには、記念スタンプを揃えている。

【図 1】



(2) 災害バーチャル体験コーナー

津波災害、土砂災害、都市型水害の3つの映像コンテンツを体験することができる。

大画面による3D映像と光や風によるリアルな演出をとおして、災害の本当の怖さを知り、注意すべきことは何かを学ぶことができる。

【図2】



(3) 地震体験コーナー

東日本大震災や高層の建物で起きる長周期地震動のほか、札幌想定地震や子ども向け地震などのオリジナルの地震体験ができる。

窓の外には、発災地の風景が広がり、仮想番組が放映されているテレビやスマートフォンからは、緊急地震速報が流れる。

地震の発生とともに、窓の外風景が変化し、停電状態になるなど、緊張感のある演出により災害の恐怖を実感することができる。

地震体験終了後には、テレビから、地震の特徴や対策方法などの説明が流れ、防災について学ぶことができる。

【図 3】



(4) 消火体験コーナー

スクリーンに火災の映像を映し出し、模擬の火炎を消すことができる。

【図 4】



(5) 煙避難体験コーナー

煙を充満させた2階建ての建物内からの避難行動を体験することができる。実際の火災と同様、停電を想定し、中は暗くなっている。

【図5】



(6) 暴風体験コーナー

3D映像と風を組み合わせることで、災害現場にいるかのような臨場感を味わいながら、暴風災害の危険性や対処方法を学ぶことができる。

【図6】



(7) 救急体験コーナー

訓練用の人形を使って、心肺蘇生を体験することができる。

モニターに流れる映像により、胸骨圧迫（心臓マッサージ）やAEDの使い方を学ぶことができる。

【図 7】



(8) はしご車に乗ってみよう

実物のはしご車に乗ることができる。運転席では、サイレンを鳴らしたり、無線交信を聞いたりすることができ、後方のはしご操作部では、はしご操作レバーを触ることができる。

【図 8】

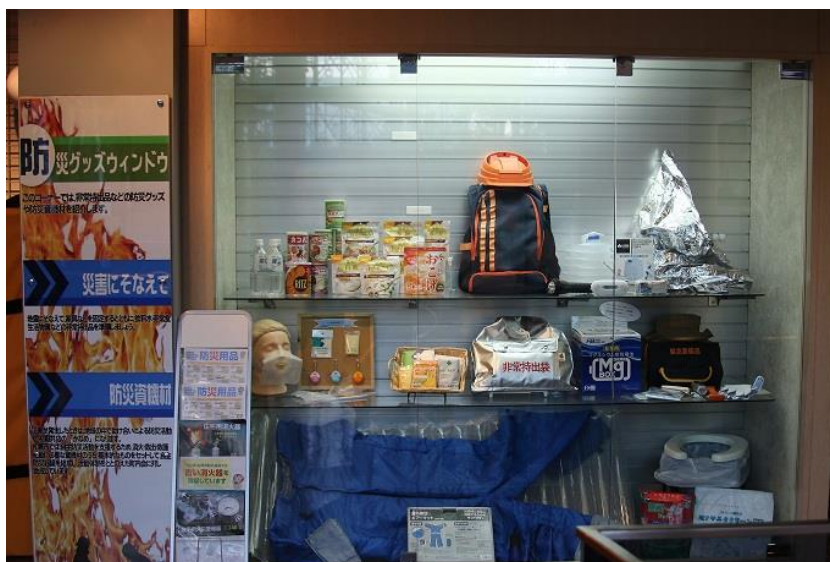


3 展示コーナー

(1) 防災グッズウィンドー

災害時の非常持ち出し品や自主防災資機材を紹介している。

【図 9】



(2) 防災シティ札幌

模型のヘリコプターを操縦することができる。

モニターで札幌市の防火・防災に関する情報を調べることができる。

【図 10】



- (3) 消防のしごと
消防のいろいろな仕事や活動服・資機材などを紹介している。

【図 11】

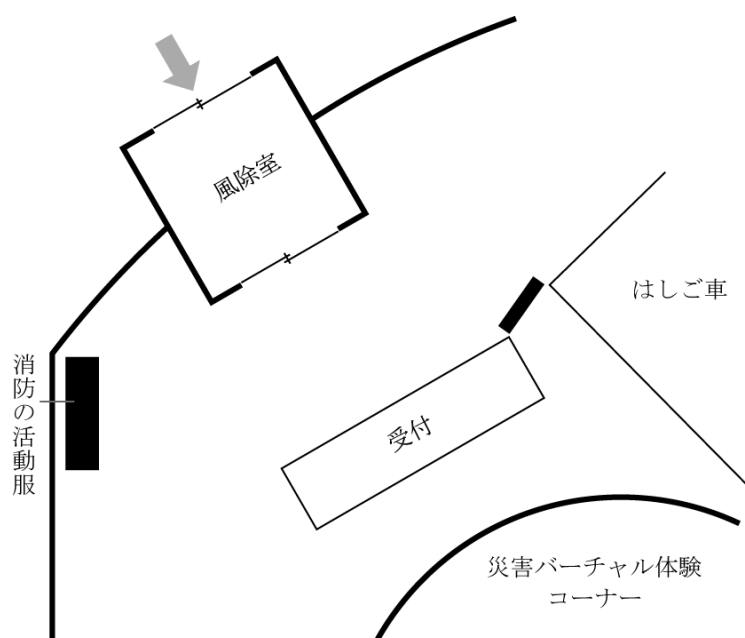


■ 各展示施設の案内

コーナーの特色に合わせた案内や機器の操作が必要となる。

1 インフォメーションコーナー

(1) レイアウト



(2) 受付

来館者が最初に訪れる場所であり、各種の問い合わせを受け付ける。

- ① 来館の挨拶、施設の目的・内容を伝える。

(例)

「札幌市民防災センターは、いろいろな災害の模擬体験をしながら、防火・防災に関する知識や、災害が発生したときの行動を学んでいただくための施設です。」

- ② 情報管理システムの区分に合わせて、来館者数を集計する。

③ 館内のルール（飲食禁止・喫煙禁止など）を来館者に伝える。

（例）

「館内は飴・ガムを含め、飲食禁止・禁煙でございます。」

④ 団体の場合、体験内容や退出時間などの調整を行う。

(3) 注意事項

センター業務の他、消防の業務に関する問い合わせがあった場合は、
消防局総務部総務課（TEL：011-215-2010）を案内する。

【集計区分】

・個人

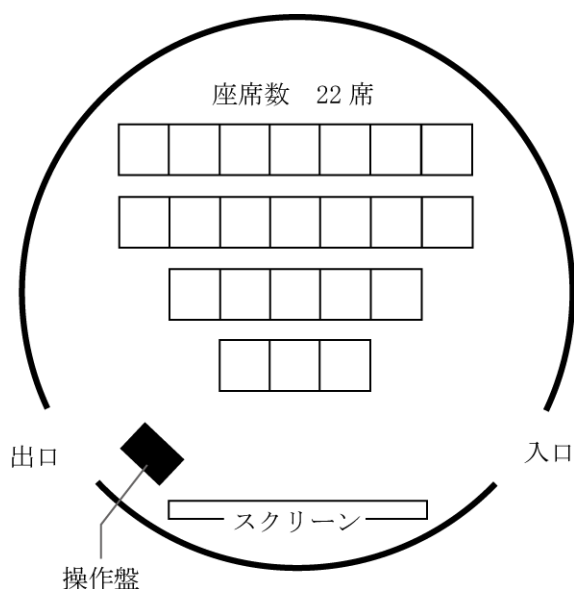
入館時間 (2 区分)	午前 (9 時 30 分～12 時 00 分) 午後 (12 時 00 分～16 時 30 分)
年 齢 (6 区分)	乳幼児／小学生／中学生／高校生 大人 (19 歳～65 歳) ／高齢者
国 籍 (4 区分)	中国／韓国／米国／他
障 が い (5 区分)	知的障がい／歩行障がい 聴力障がい／視覚障がい／他

・団体

予約時間	入退館時間
団体情報	団体名 (予約名) ／担当者の名前 連絡先／住所／人数
年 齢 (6 区分)	乳幼児／小学生／中学生／高校生 大人 (19 歳～65 歳) ／高齢者
国 籍 (4 区分)	中国／韓国／米国／他
障 が い (5 区分)	知的障がい／歩行障がい 聴力障がい／視覚障がい／他
そ の 他	交通機関／体験内容／班数

2 災害バーチャル体験コーナー

(1) レイアウト



(2) 体験方法

- ① 入室する際、3Dメガネを受け取る。
- ② 椅子に着席後、3Dメガネを着用する。
- ③ 上映開始
- ④ 上映終了
- ⑤ 出口付近で3Dメガネを返却する。

(3) 案内手順

- ① 来館者が入室する際、入口付近で3Dメガネを配る。

(例)

「3Dメガネをお受け取りください。中は暗く段差がございます。
足元には十分お気をつけください。」

- ② 来館者の着席を確認し、入口と出口のドアを閉める。
- ③ 上映内容を伝える。

(例)

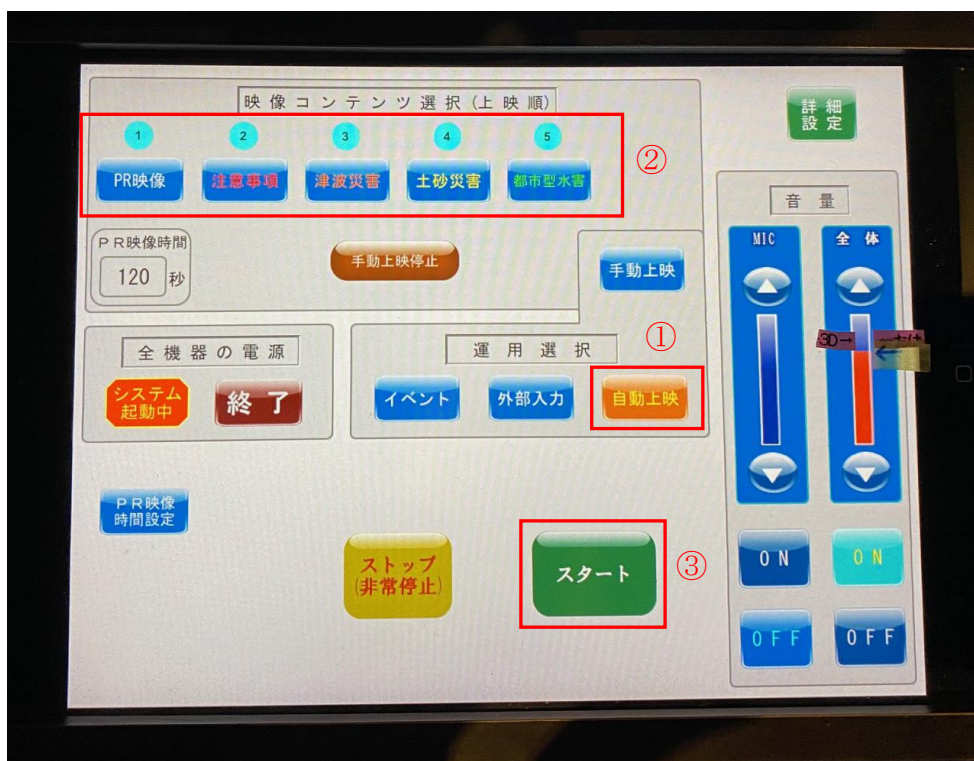
「災害バーチャル体験コーナーでは専用のメガネをかけ、立体映像

をご覧ください。
津波災害、土砂災害、都市型水害に関する映像 3 本立てで、
上映時間は約 22 分間です。」

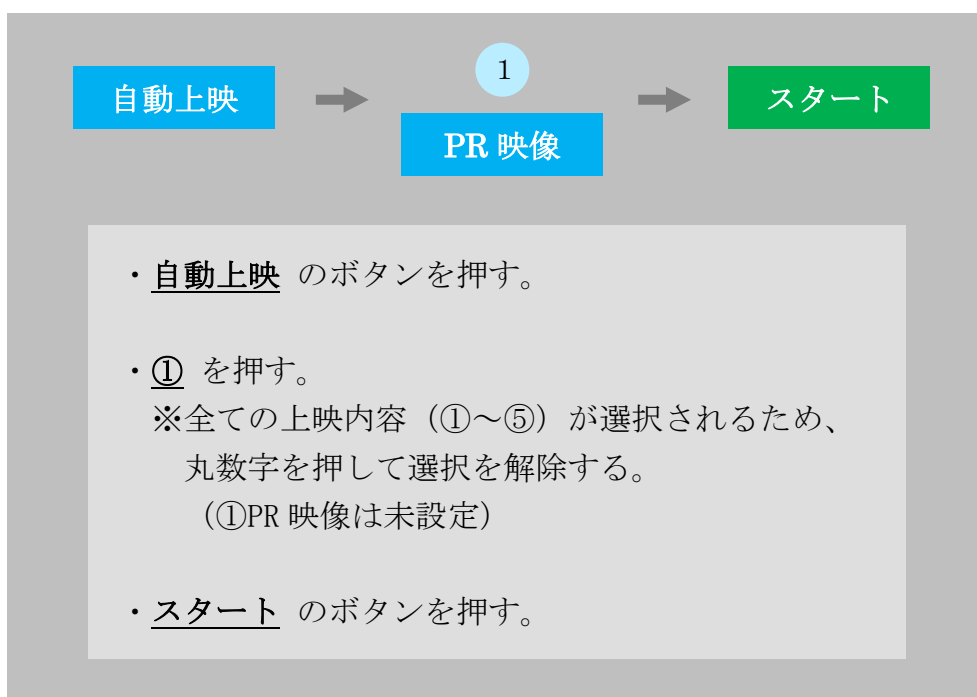
- ④ 上映開始
- ⑤ 上映終了
- ⑥ ドアを開け、出口付近で来館者から 3D メガネを回収する。
(例)
「お忘れ物がないよう、また、足元にお気をつけてご退出ください。」
- ⑦ 回収した 3D メガネは汚れを落とし、保管場所に戻す。
- ⑧ 来館者の退室後は、必ず忘れ物の有無を確認する。

【上映方法】

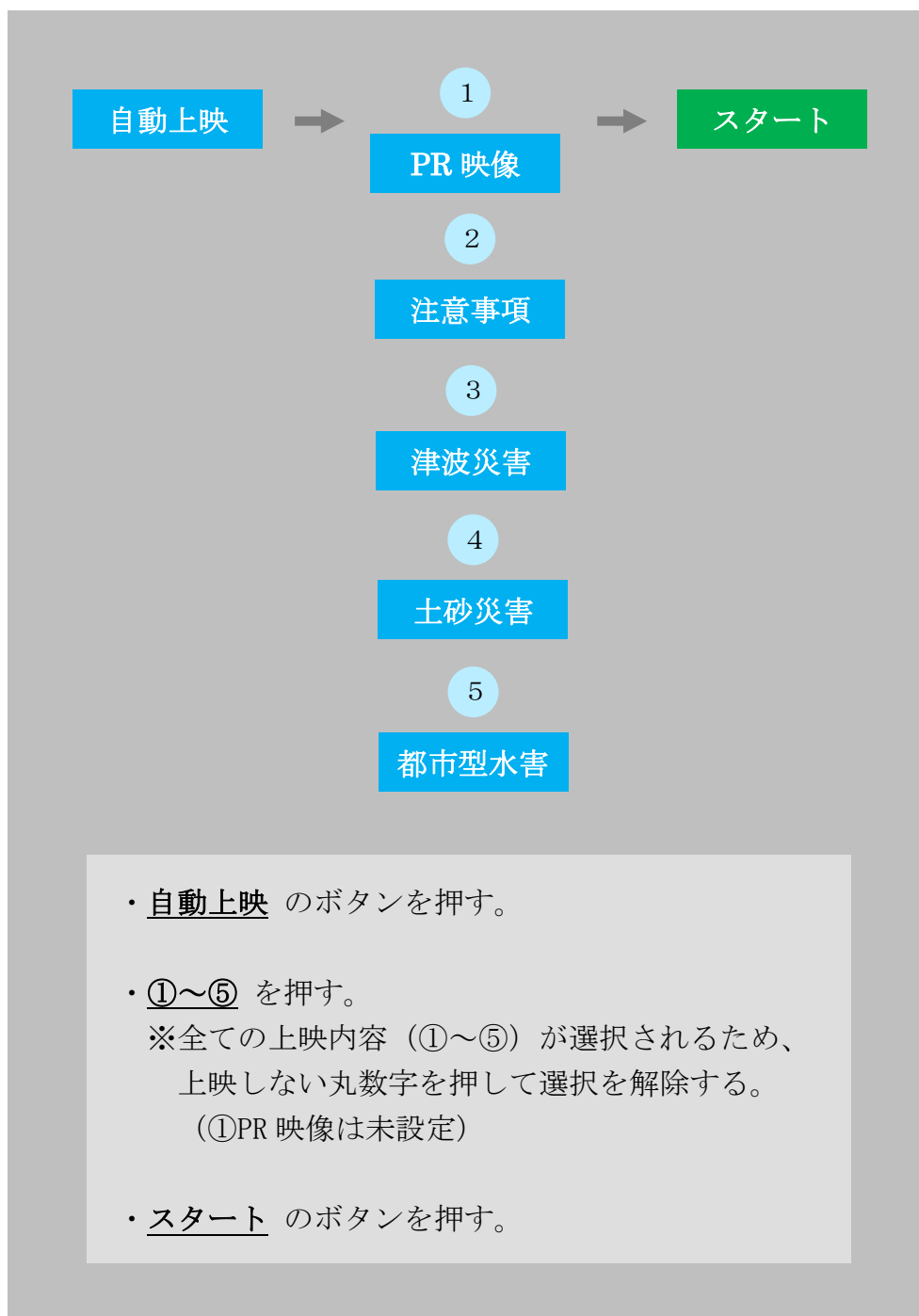
操作盤（手順：①自動上映 → ②映像コンテンツ選択 → ③スタート）



- ・ 通常（注意事項＋津波災害＋土砂災害＋都市型水害 約 22 分間）

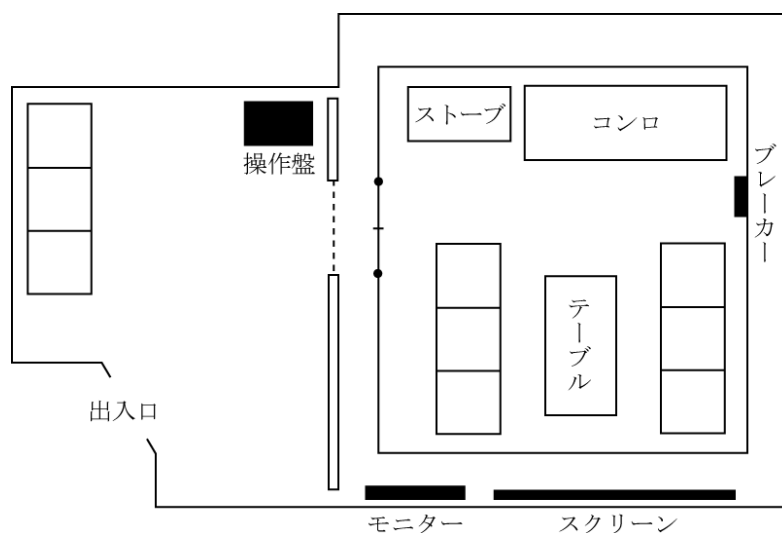


- ・ 選択（自由に組み合わせが可能） ※①PR映像を除く



3 地震体験コーナー

(1) レイアウト



(2) 体験方法

- ① 8種類（震度3・5・6・7）の震度の中から選択する。

震度3	子ども地震	震度7	関東地震
震度5	長周期地震動	震度7	兵庫県南部地震
震度5	北海道南西沖地震	震度7	東北地方太平洋沖地震
震度6	スマトラ島沖地震	震度7	札幌想定地震

- ② 起震台の椅子に着席する。
 ③ 起震台が上昇する。
 ④ 体験開始
 ⑤ 揺れている間は、クッションで身（頭部）を守る。
 ⑥ 揺れがおさまった後、火災対策用機器のスイッチを切る。
 ⑦ 体験終了
 ⑧ 起震台が開始時の位置に降下する。

【火災対策用機器】

- ・ストーブ、ガスコンロ



- ・ブレーカー



※火災対策結果表示

火災対策の対応ができている場合は緑色のランプが点灯する。

(3) 案内手順

- ① 震度（地震）を確認し、体験方法を伝える。

（例）

「地震の揺れを感じたら、第一に自分の身を守ってください。
火の始末は揺れがおさまってから、火の元の確認をしましょう。」

- ② 来館者の着席を確認し、起震台の柵の施錠を行う。

- ③ 操作パネルの地震選択画面で地震を選択し、開始ボタンを押す。

（例）

「体験中に立ち上がると転倒する恐れがありますので、決して立ち
上がらないようにお願いします。」

- ④ 体験開始

- ⑤ 体験終了

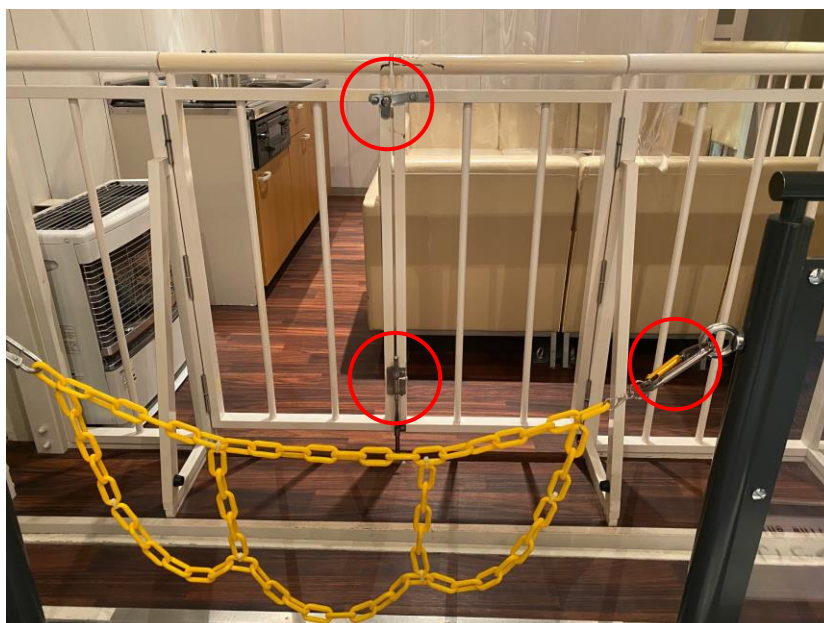
- ⑥ 体験後、体験に即した防災の心得を伝える。

- ⑦ 柵を解錠し、起震台から来館者を退出させる。

(4) 注意事項

起震台周辺は、安全装置としてセンサーが設置されている。

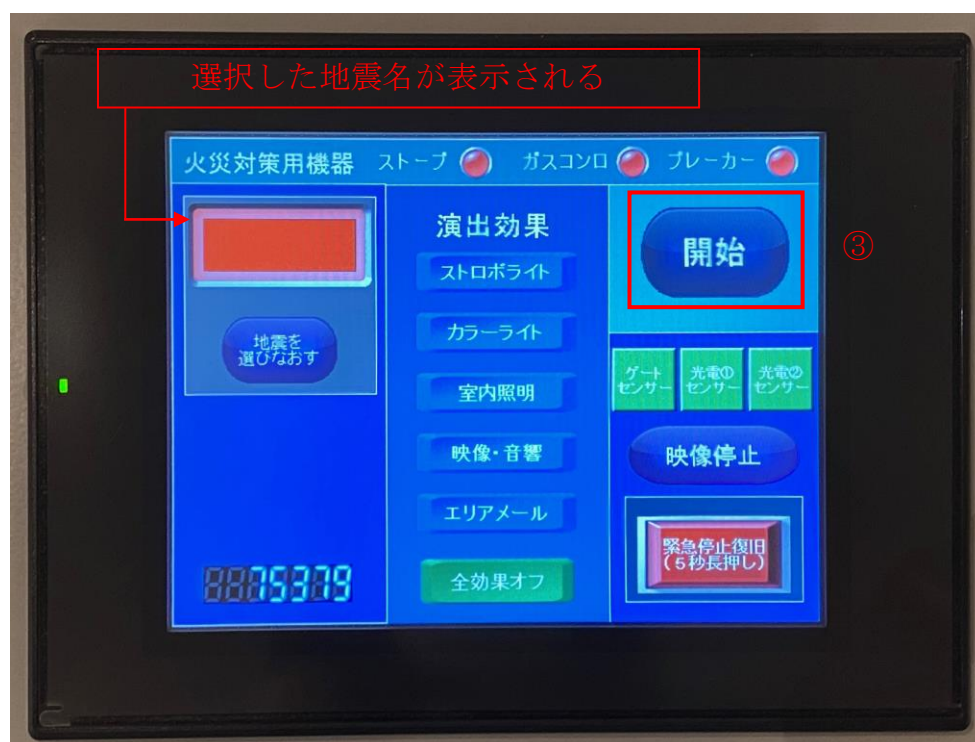
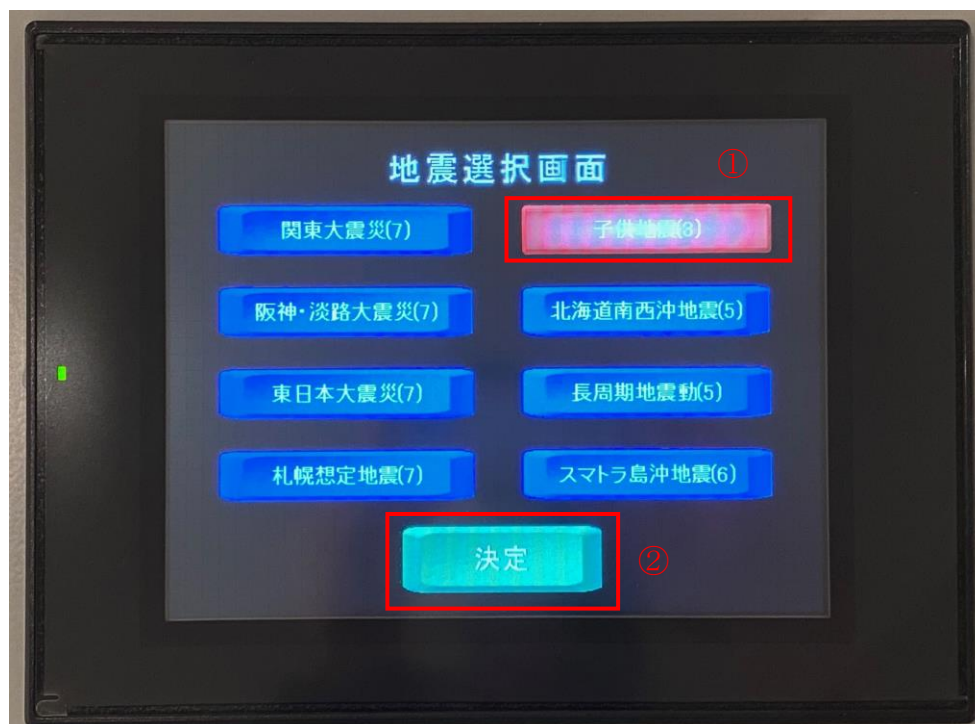
柵が施錠されていない場合やチェーンを超えて起震台に近づいた場合にセンサーが感知し、緊急停止する。



※施錠場所 柵 2 か所、チェーン 1 か所 計 3 か所

【操作方法】

操作盤（手順：① 地震選択 → ②決定 → ③開始）



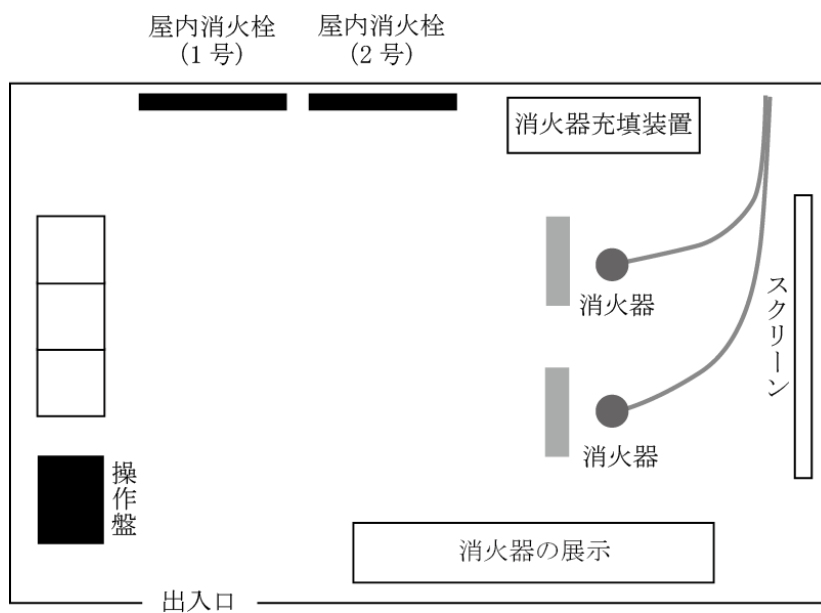
※演出効果を変更する場合は、開始ボタンを押す前に設定を行う。

【各地震概要】

地震	震度	震度表示	発生日時	起震時間	体験時間
子ども地震	3.2	3	20XX年夏	30秒	95秒
長周期地震動	4.8 (新宿)	5	2011/3/11 14時46分	30秒	95秒
北海道南西沖地震	5.4 (推定)	5	1993/7/12 22時17分	70秒	135秒
スマトラ島沖地震	6 (データ無)	6	2009/9/30 10時16分	60秒	125秒
関東地震 (関東大震災)	6.5 (推定)	7	1923/9/1 11時58分	60秒	120秒
兵庫県南部地震 (阪神淡路大震災)	6.4 (JR鷹取)	7	1995/1/17 5時46分	25秒	90秒
東北地方太平洋沖地震 (東日本大震災)	6.6 (宮城)	7	2011/3/11 14時46分	120秒	185秒
札幌想定地震	6.5 (新潟県 川口町)	7	20XX年冬	60秒	125秒

4 消火体験コーナー

(1) レイアウト



(2) 体験方法

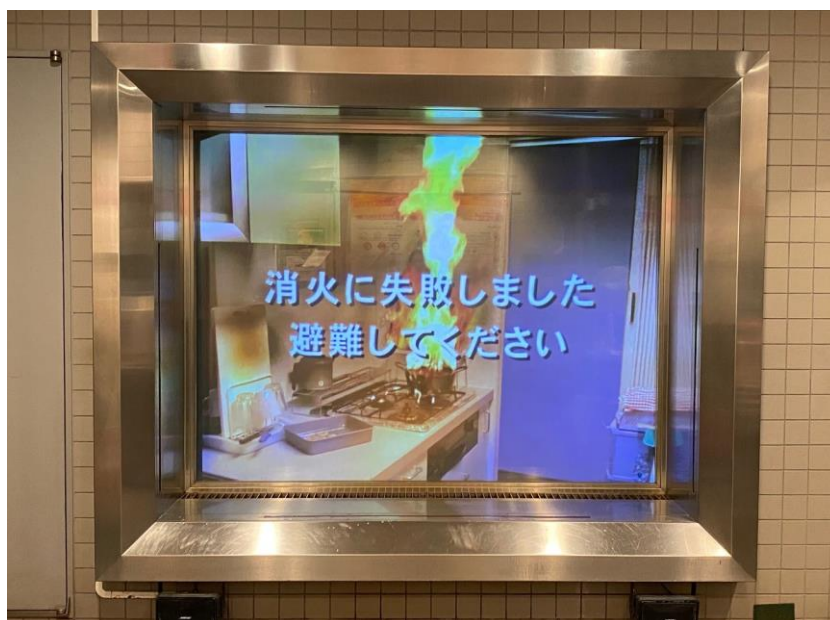
- ① 床にある白線の位置に立つ。
- ② 天ぷら油火災の映像がスクリーンに映し出される。
- ③ 体験開始
- ④ 大きな声で周囲に火事であることを知らせる。
- ⑤ 消火器を操作し、スクリーンの映像の火元を狙う。
- ⑥ センサーが消火の成功または失敗を判断。
- ⑦ 結果はスクリーンに映し出される。
- ⑧ 体験終了

【消火の結果表示】

- ・ 消火成功



- ・ 消火失敗



(3) 案内手順

- ① 床にある白線の位置に誘導する。
- ② 解説映像を上映し、体験方法を伝える。

(例)

「消火器の使い方は、まず、安全ピンを真上に引き抜きます。
次にホースを取り、先端をしっかりと持ちます。
最後は狙いを定めてレバーを強く握ります。」

- ③ 体験開始
- ④ 火災の発生を周囲に知らせるよう促す。
- ⑤ 安全ピンを抜く → ホースを火元に向ける → レバーを握る
- ⑥ 体験終了
- ⑦ 体験後、体験に即した防火の心得を伝える。
- ⑧ 来館者を退出させ、安全ピンとホースを元に戻す。
- ⑨ スクリーンの枠についた水滴を除去する。



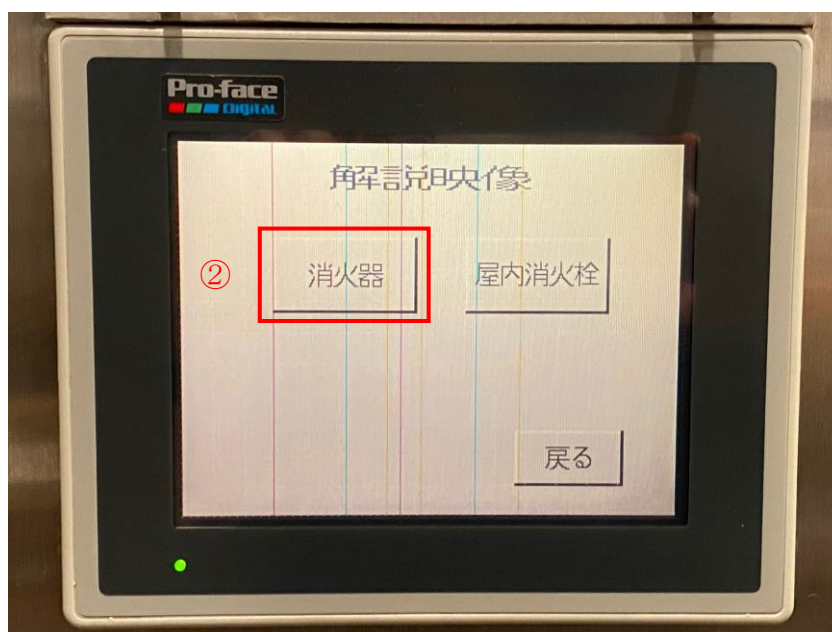
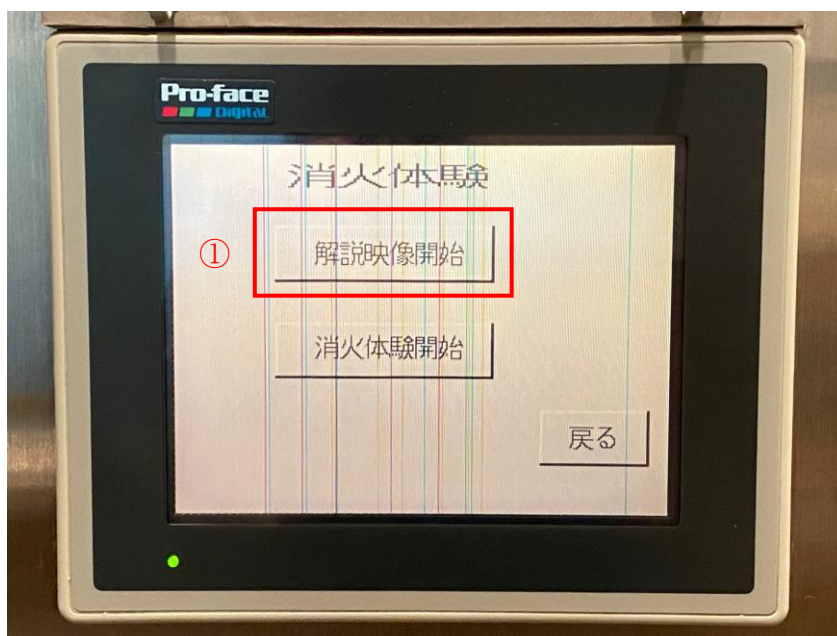
※上下左右にあるセンサー部分に水滴が溜まると、センサーの精度が落ちるため、エアコンプレッサで水滴を除去する。

(4) 注意事項

水道と連結している消火器は、「消火してください」のアナウンスが流れるまで、レバーを握っても水が出ないように制御されている。

【解説映像】

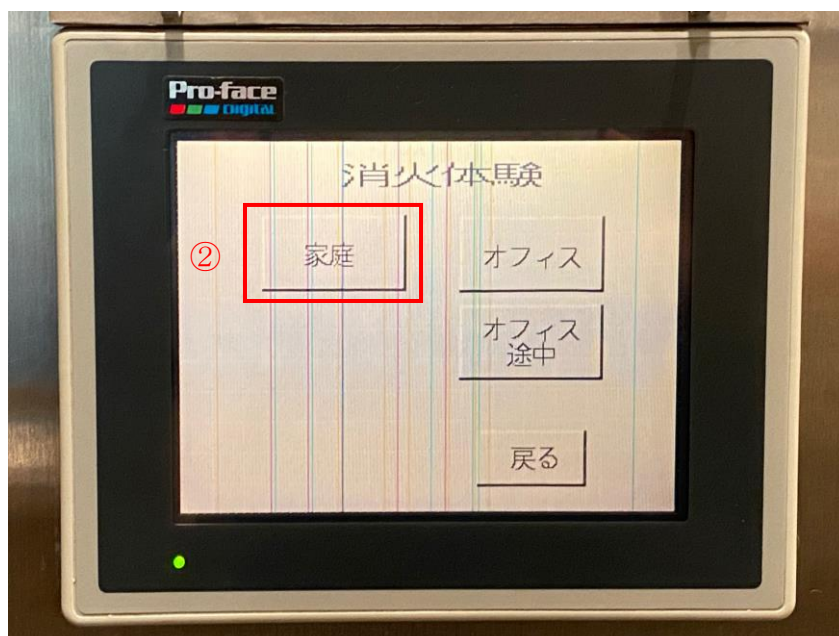
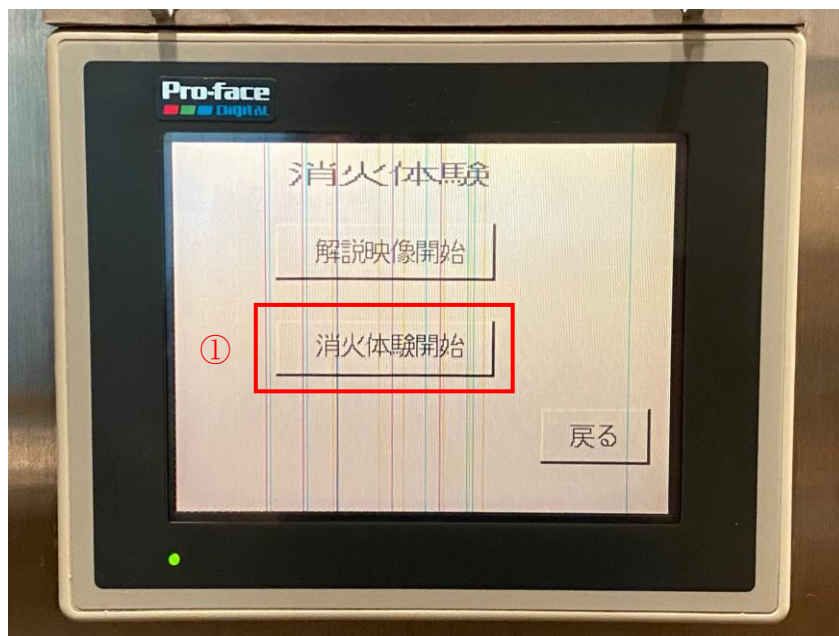
操作盤（手順：①解説映像開始 → ②消火器）



※解説映像は約1分間上映される。
上映は途中で停止することができない。

【操作方法】

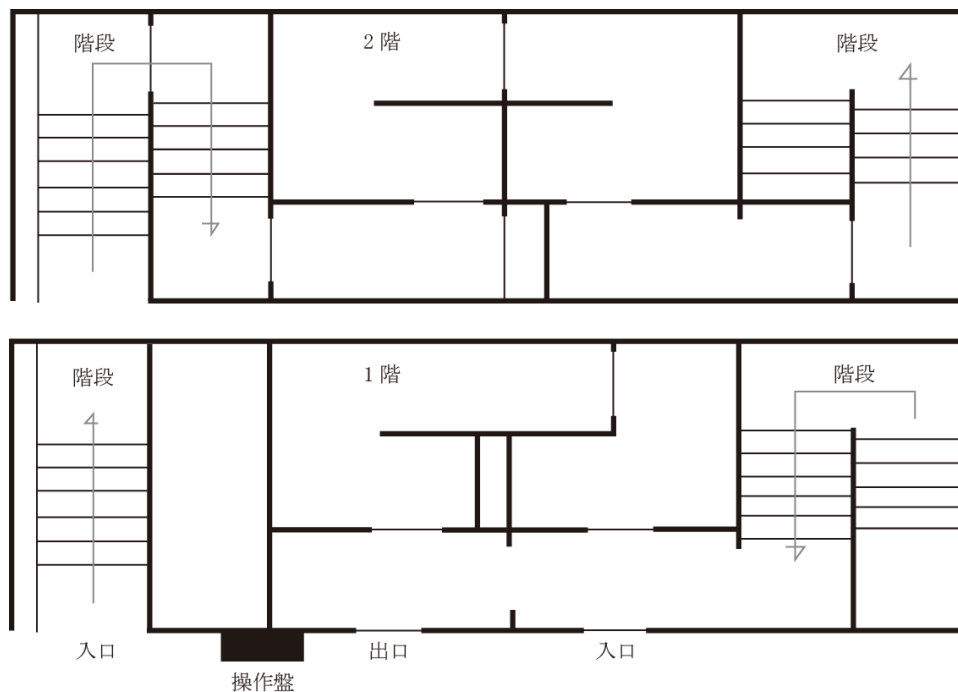
操作盤（手順：①消火体験開始 → ②家庭）



※体験映像は途中で停止することができない。

5 煙避難体験コーナー

(1) レイアウト



(2) 体験方法

- ① コースを選択する。(2階コース/1階コース)
- ② 体験開始
- ③ ハンカチ等で鼻と口を隙間がないよう覆う。
- ④ 姿勢を低く保ち、片方の手で壁を触りながら避難する。
- ⑤ 誘導灯の矢印に従い、開けたドアは必ず閉めて避難する。
- ⑥ 体験終了

(3) 案内手順

- ① 体験前に、体調（疾患）について確認する。
(例)
「体験コーナーの煙は体に害はありませんが、喘息や気管支炎の方、
のどの弱い方、アレルギー体質の方はご利用をお控えください。」
- ② コース選択後、スモークマシンの電源を切り替える。

- ③ 操作盤を起動（発煙）し、体験方法を伝える。

（例）

「ハンカチやタオルが無い時は洋服など、布地のものを出来るだけ厚くして、口と鼻を覆うようにしてください。

そして、しっかり姿勢を落として誘導灯の矢印に従い、避難してください。」

- ④ 体験開始

- ⑤ 体験終了

- ⑥ 体験後、体験に即した防火の心得を伝える。

- ⑦ 排煙ボタンを押し、煙を放出する。

(4) 注意事項

体験をはじめめる前に、必ず体調（疾患）について確認を行う。

※スモーク液の注意事項

(DAINICHI PORTA SMOKE PS-2005 取扱説明書抜粋)



1. 安全のために必ずお守りください



お使いになる方や他の人への危害、財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを説明しています

誤った取り扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の区分で説明しています。

⚠ 注意 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が軽傷を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

本文中のマークは、次の意味を表します。

	このマークは、してはいけない「禁止」を表しています。
	このマークは、必ず実行していただく「指示」を表しています。

⚠ 注意(CAUTION)	
<p>取扱注意 乱暴に取り扱わないでください。機器が損傷するばかりでなく、液漏れによる故障や感電のおそれがあります。</p> 	<p>設置場所に注意 水のかかる場所では使用しないでください。感電などの事故や故障の原因になります。</p> 
<p>火気・可燃物近接注意 火気や高温の加熱物があるところでは、スモークを噴出しないでください。スモークの成分と炎が反応して悪臭が生じるおそれがあります。</p> 	<p>高温部接触禁止 スモーク噴出口と噴出直後のスモークは高温です。やけどのおそれがありますので、決してさわらないでください。</p> 
<p>発煙方向注意 人や物にスモークを直接あてることは絶対にしないでください(安全距離：2m以上)。やけどやシミを付けたりするおそれがあります。</p> 	<p>スモーク液を飲まない 吐き気・頭痛・めまいを起こすおそれがあります。</p> 
<p>高い濃度のスモークを吸い込まない 吐き気・頭痛・めまいを起こすおそれがあります。体調の悪い方、何らかの疾患をもっている方、アレルギー体質の方は、スモークに近付かないでください。アレルギー症状などを引き起こすおそれがあります。</p> 	<p>過剰発煙禁止 視界が50cm以下になるまでスモークすることはやめてください。非常口などの表示や足元が見えにくくなり、大変危険です。小さな部屋でスモークするときは、特に注意してください。</p> 
<p>煙を多量に吸い込まない スモークを多量に吸い込んで気分が悪くなったときは、新鮮な空気のある場所に移動してください。</p> 	<p>スモーク液の取扱注意 スモーク液は、保護メガネを使用するなど、目に入らないようにしてください。炎症を起こすことがあります。また、取り扱い際は、保護手袋を使用するなど、液が直接皮膚につかないようにしてください。肌あれのおそれがあります。</p> 

【センサー】

建物内には、2種類（姿勢・ドア）のセンサーが設置されている。

- ・姿勢を感知するセンサー



※体験者の姿勢が高い時は、コーナー内に音声による注意が流れる。操作盤でも音声を確認することができる。

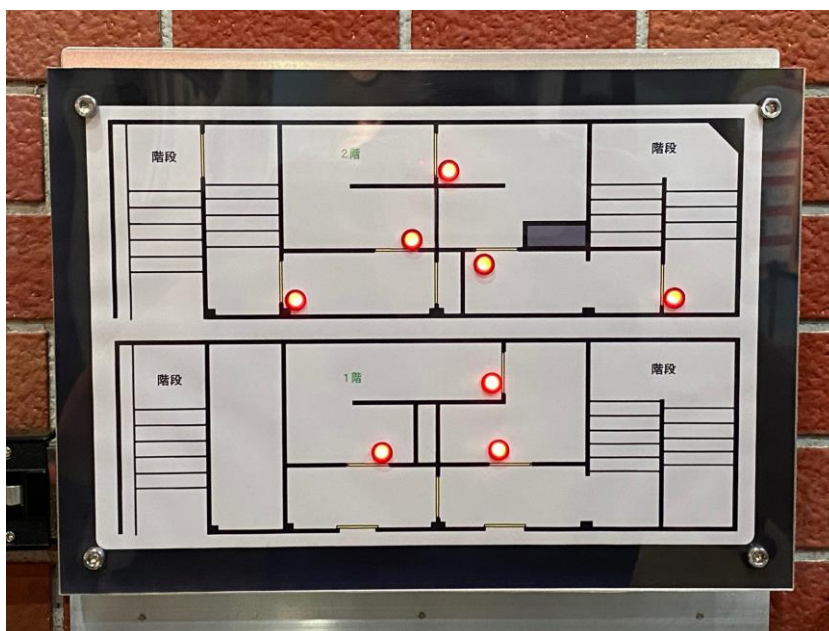
- ・ドアの開閉を感知するセンサー



※ドアの開閉状況は、表示盤で確認することができる。



緑色：ドア閉鎖



赤色：ドア開放

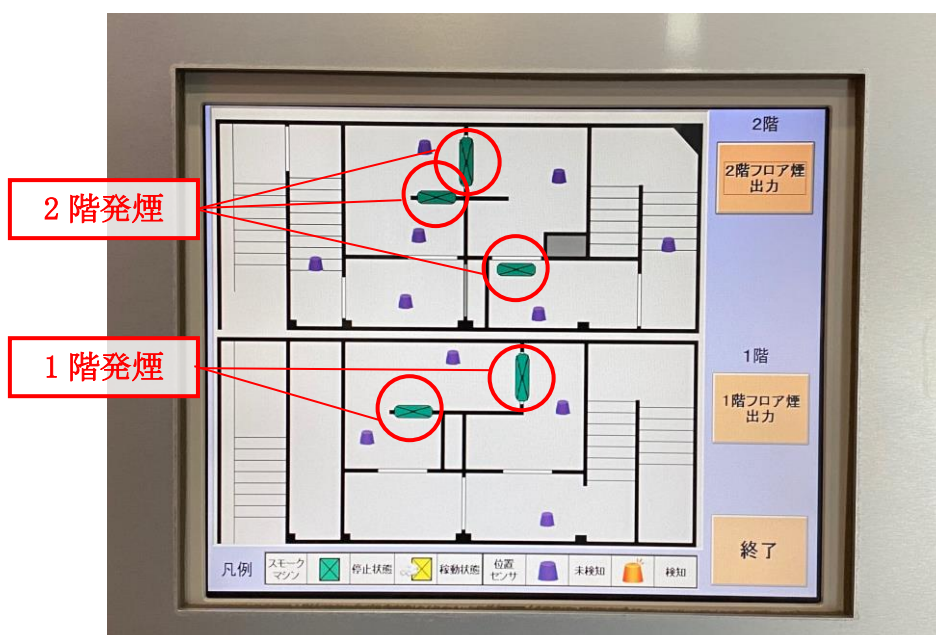
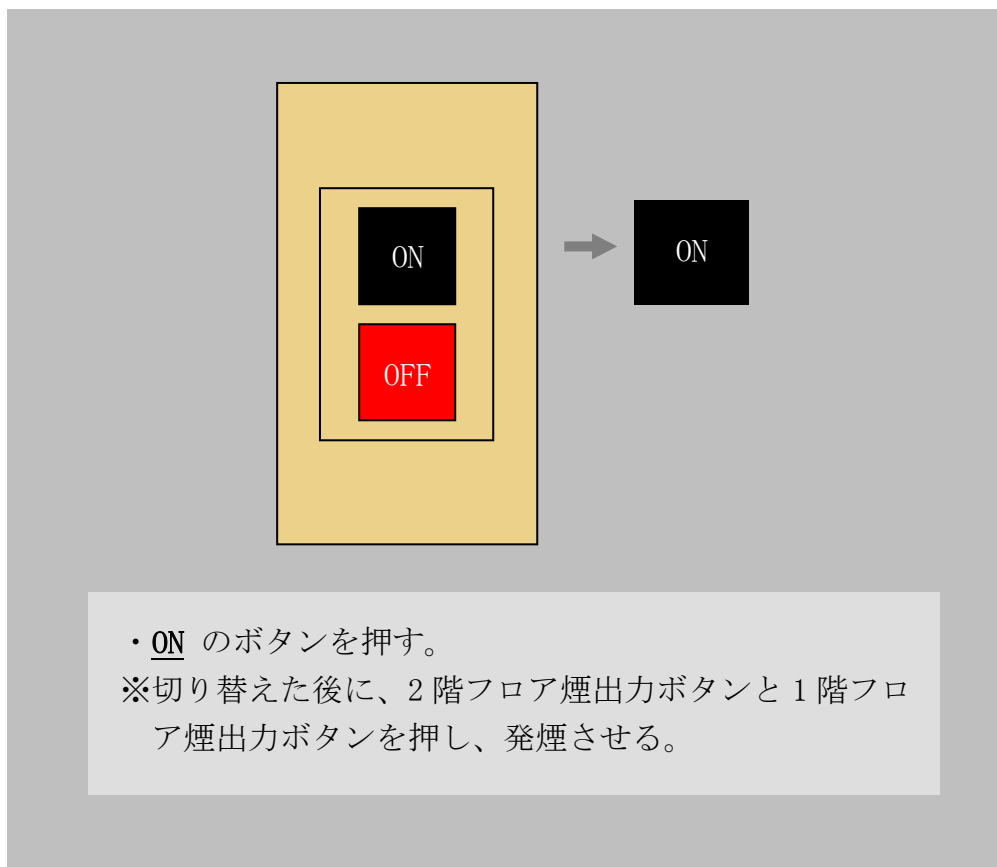
【スモークマシンの電源切り替え】

操作盤付近にあるスイッチでスモークマシンの電源を切り替える。

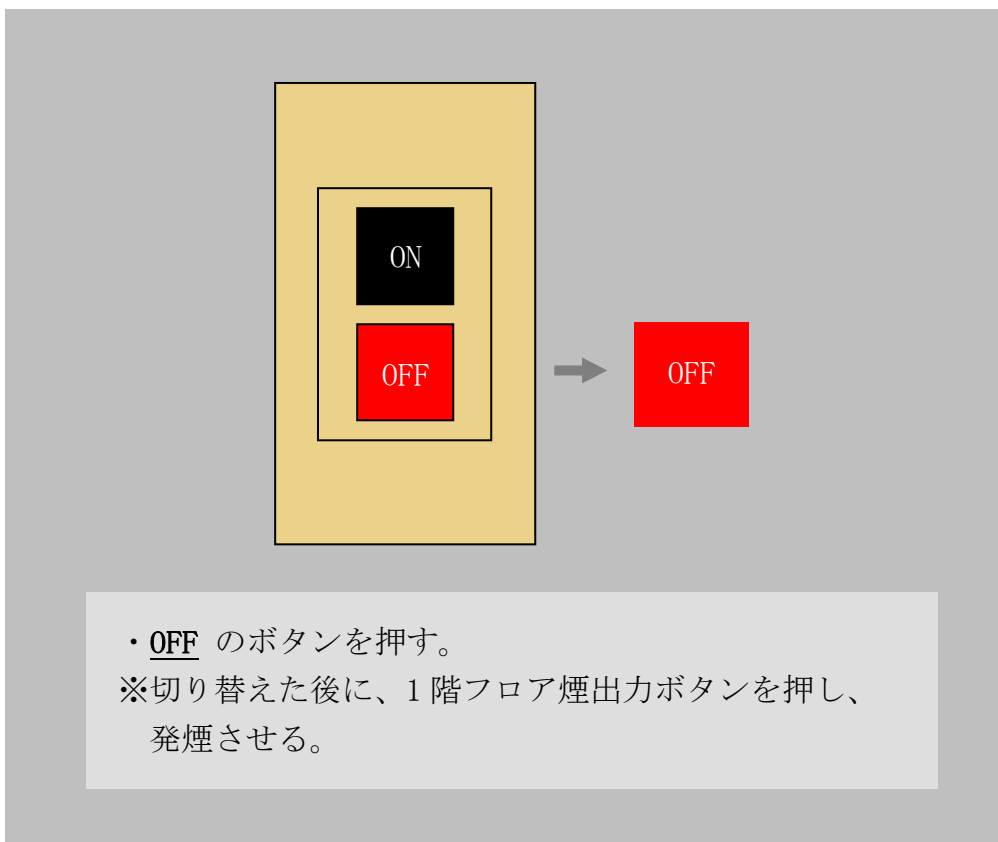
1階と2階に設置されているスモークマシンの電源を切ること、発煙を制御することができる。



- 全てのスモークマシンの発煙（1階：2機稼働、2階：3機稼働）



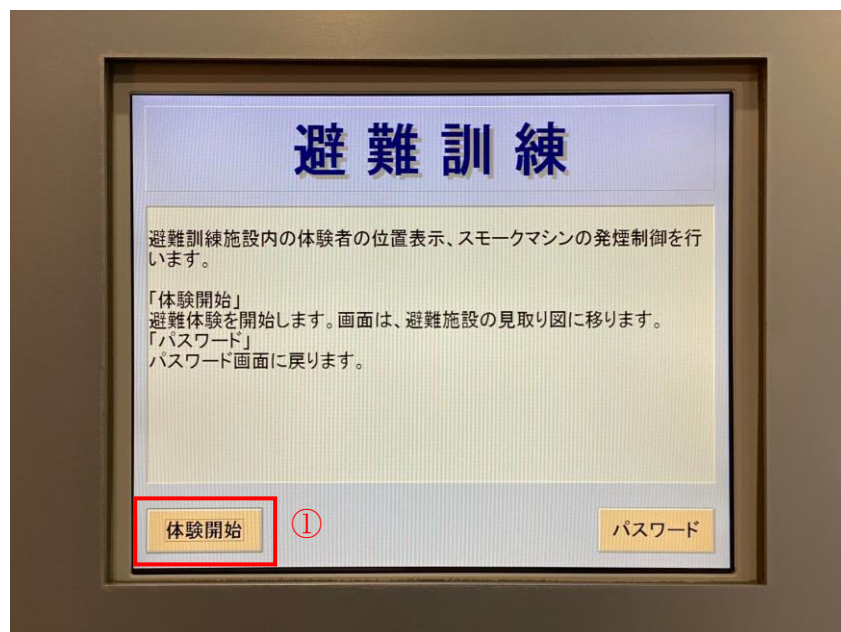
- 1階のみスモークマシンの発煙（1階：2機稼働、2階：3機休止）



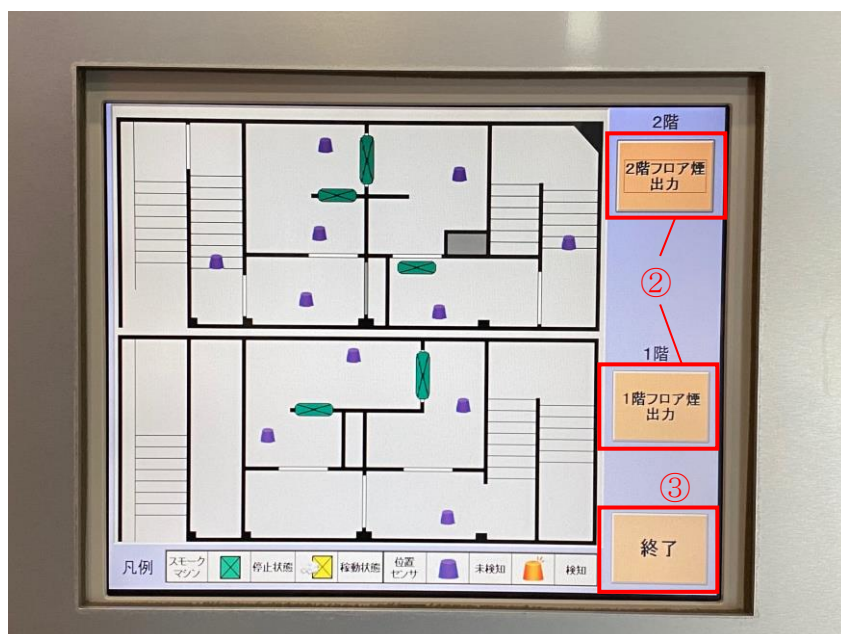
【操作方法】

操作盤（手順：①体験開始 → ※ ②2階(1階)フロア煙出力 → ③終了）

※再度、発煙する場合は、②2階(1階)フロア煙出力のボタンを押す。

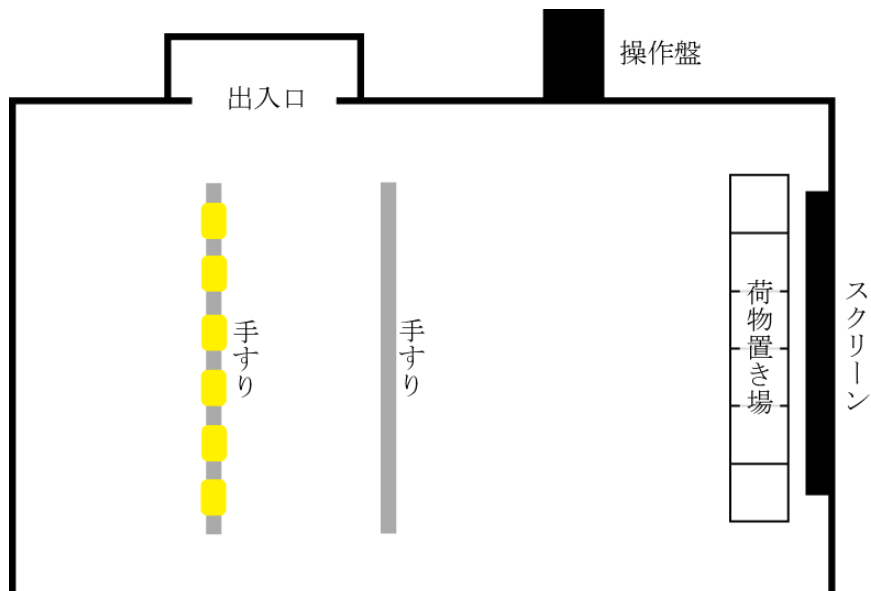


体験開始ボタンを押すとスモークマシンが起動し、発煙される。



6 暴風体験コーナー

(1) レイアウト



(2) 体験方法

- ① 3種類（10m/s・20m/s・30m/s）の風速の中から選択する。
- ② 入室する際、3Dメガネを受け取る。
- ③ 荷物置き場に持ち物を置く。
- ④ 3Dメガネを着用し、手すりに掴まる。
- ⑤ 体験開始
- ⑥ 体験終了
- ⑦ 出入口付近で3Dメガネを返却する。

(3) 案内手順

- ① 来館者が入室する際、出入口付近で3Dメガネを配る。
(例)
「正面のスクリーンには、暴風の映像と解説が3D映像で流れます。
体験は、風速10m、20m、30mの中からお選びいただけます。」
- ② 来館者が手すりに掴まったことを確認し、ドアを閉める。

- ③ 体験開始
- ④ 体験終了
- ⑤ ドアを開け、体験に即した防災の心得を伝える。
- ⑥ 出入口付近で 3D メガネを回収する。
- ⑦ 回収した 3D メガネは、汚れを落とし、保管場所に戻す。
- ⑧ 来館者の退室後は、忘れ物の有無を確認する。

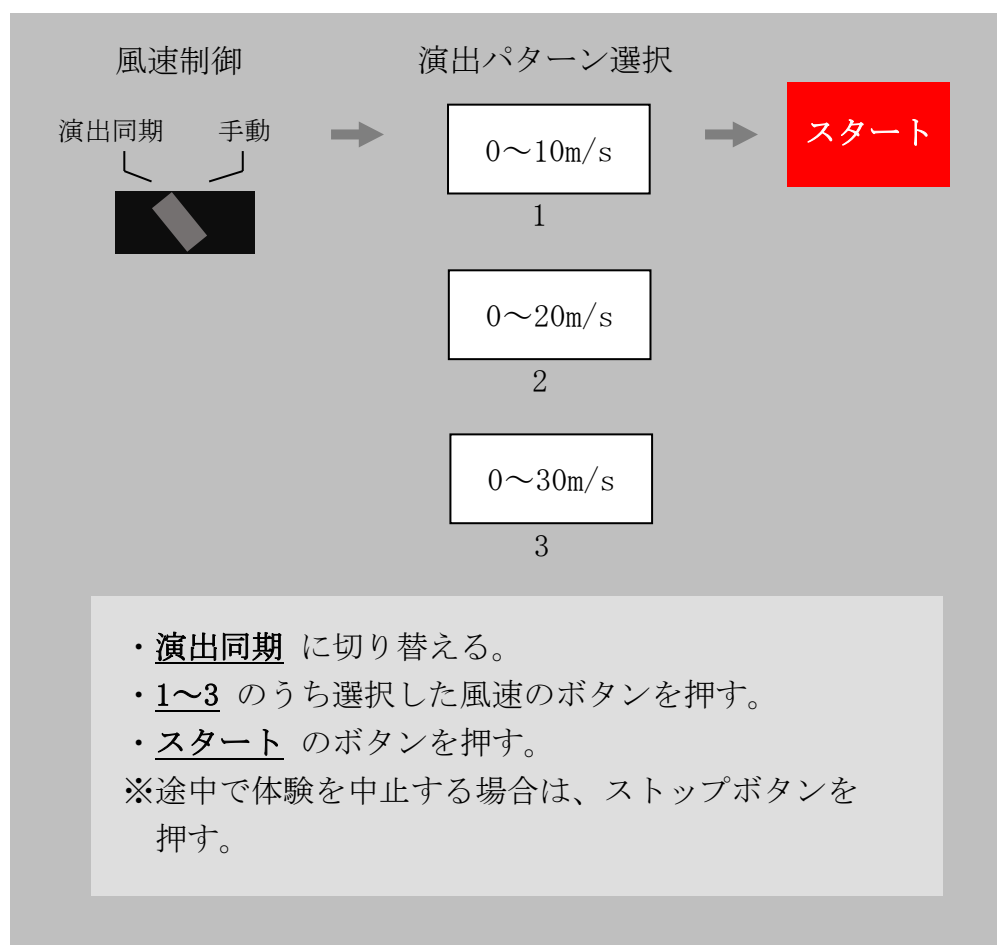
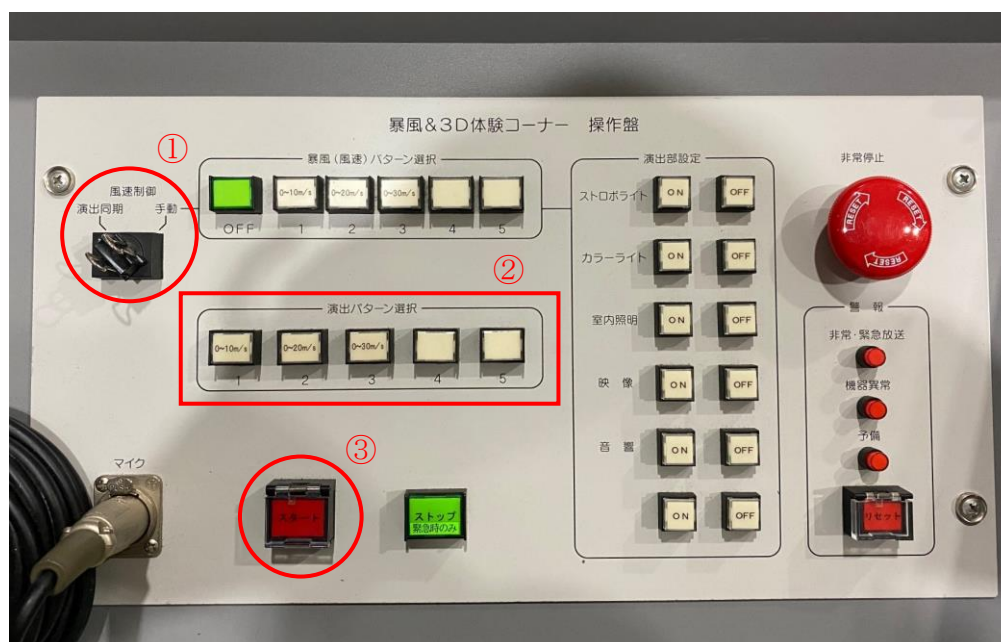
(4) 注意事項

- ① 身につけている装飾品等は、強風により外れてしまう可能性がある。
- ② 体験中は、小窓から中の様子を注視する。

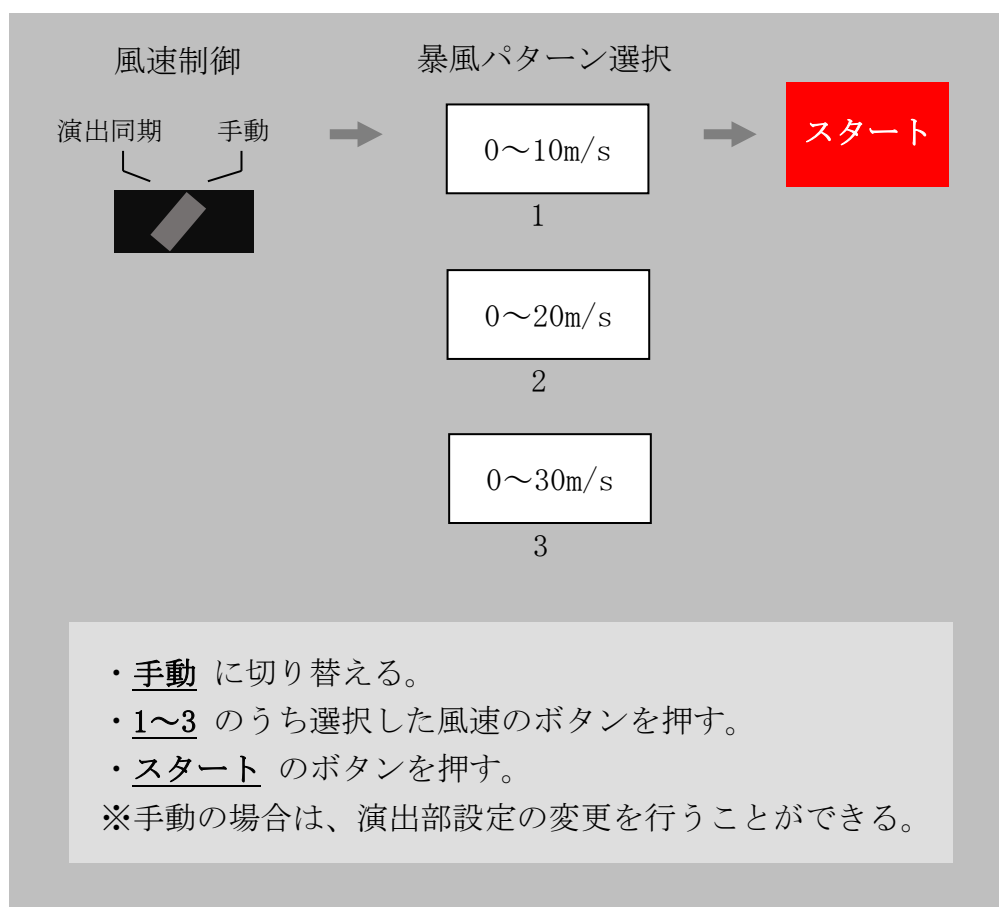


【操作方法】

- ・自動（手順：①風速制御 演出同期 → ②演出パターン選択 → ③スタート）

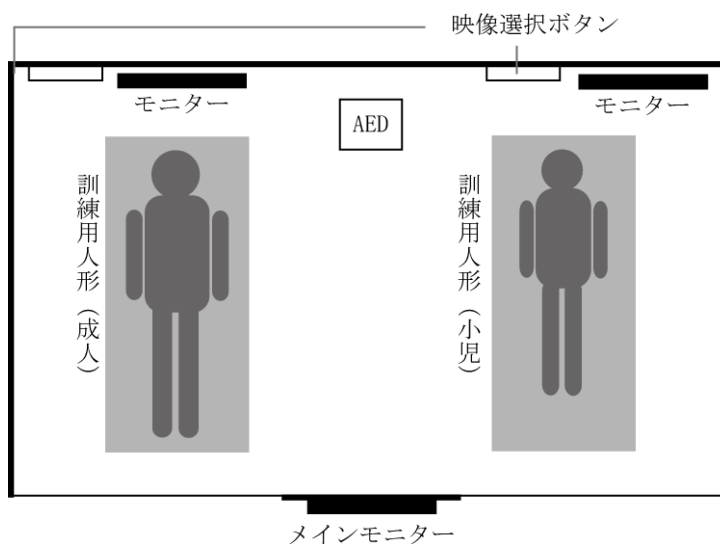


- ・ 手動（手順：①風速制御 手動 → ②暴風パターン選択 → ③スタート）



7 救急体験コーナー

(1) レイアウト

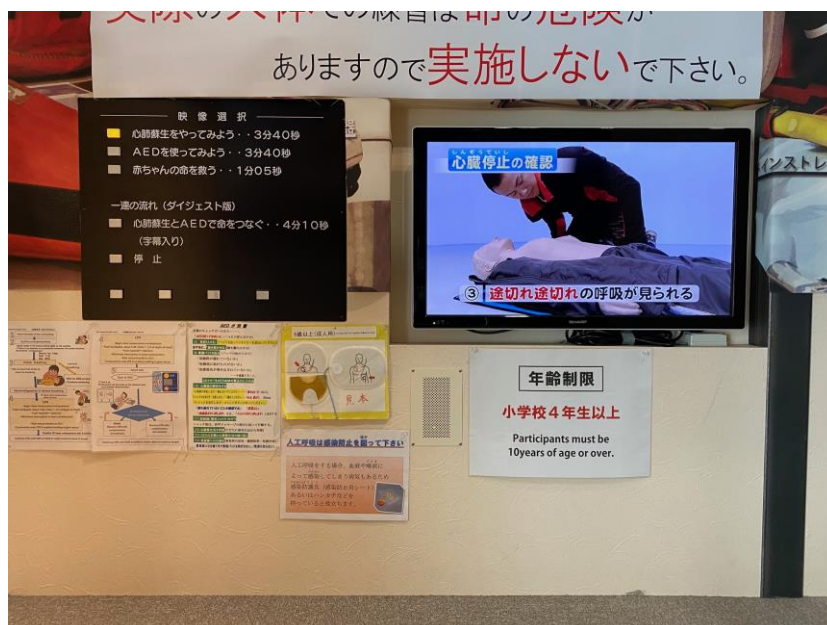


(2) 体験方法

自由に体験ができる。

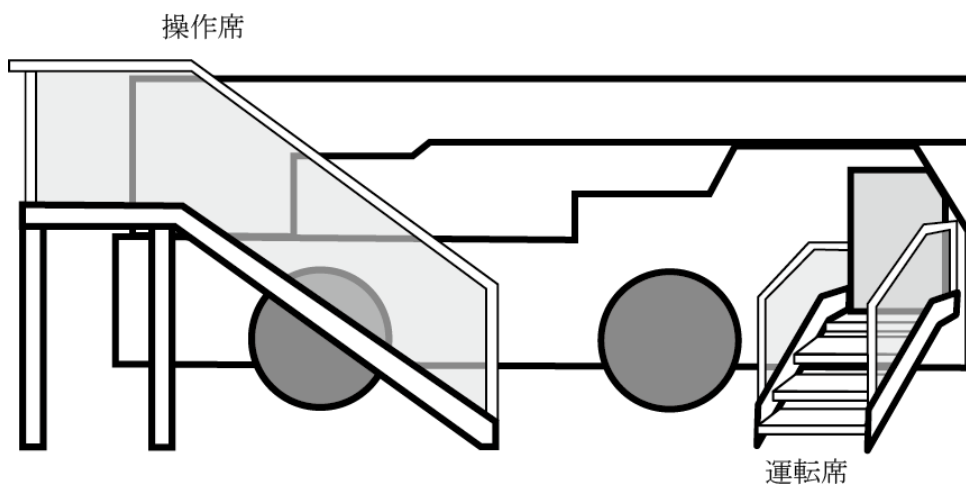
(3) 案内手順

心肺蘇生・AEDの使い方は解説映像で確認することができる。



8 はしご車に乗ってみよう

(1) レイアウト



(2) 体験方法

自由に体験ができる。

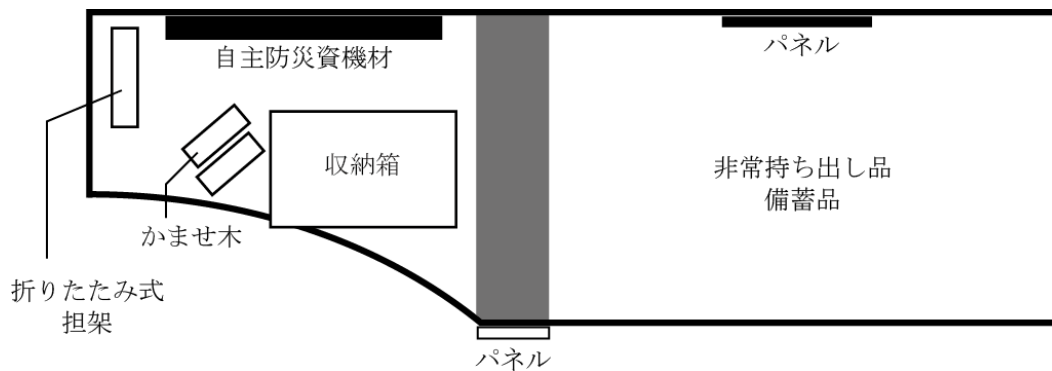
(3) 案内手順

展示物に関する説明が掲示されている。



9 防災グッズウィンドー

(1) レイアウト



(2) 体験方法

自由に見学ができる。

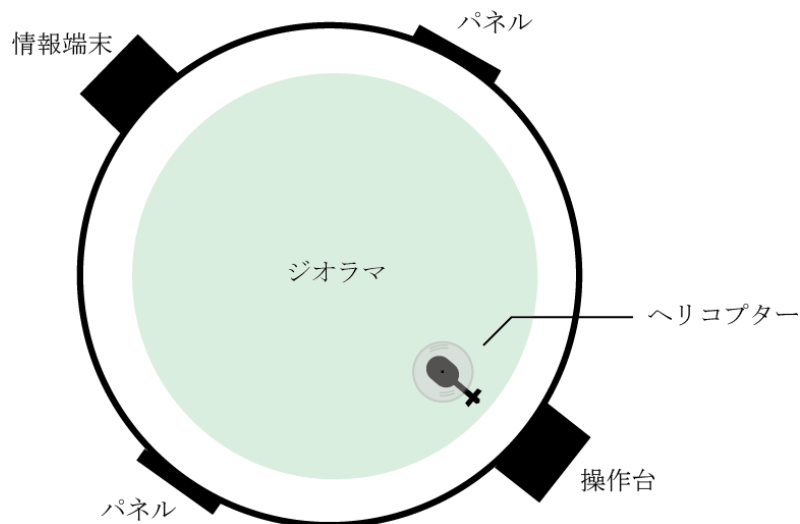
(3) 案内手順

展示物に関する説明が掲示されている。



10 防災シティ札幌

(1) レイアウト



(2) 体験方法

- ① 自由に体験ができる。
- ② 小型カメラを搭載したヘリコプター模型を操作し、ジオラマの空中映像をモニターで見ることができる。

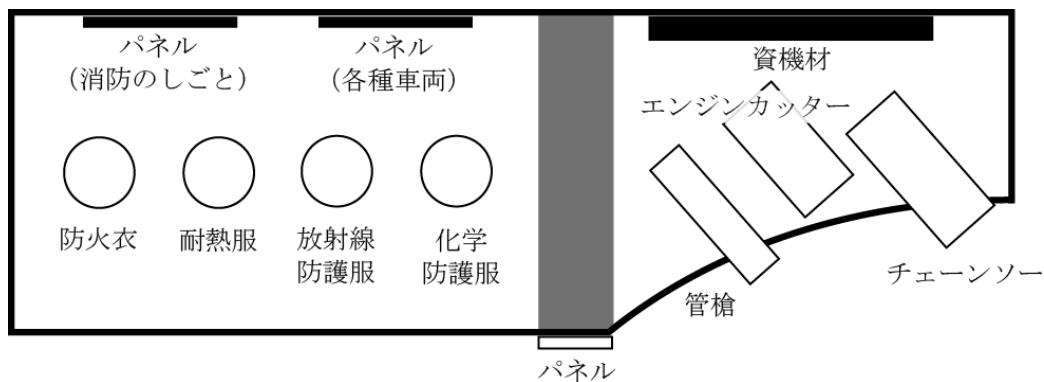
(3) 案内手順

展示物に関する説明が掲示されている。



11 消防のしごと

(1) レイアウト



(2) 体験方法

自由に見学ができる。

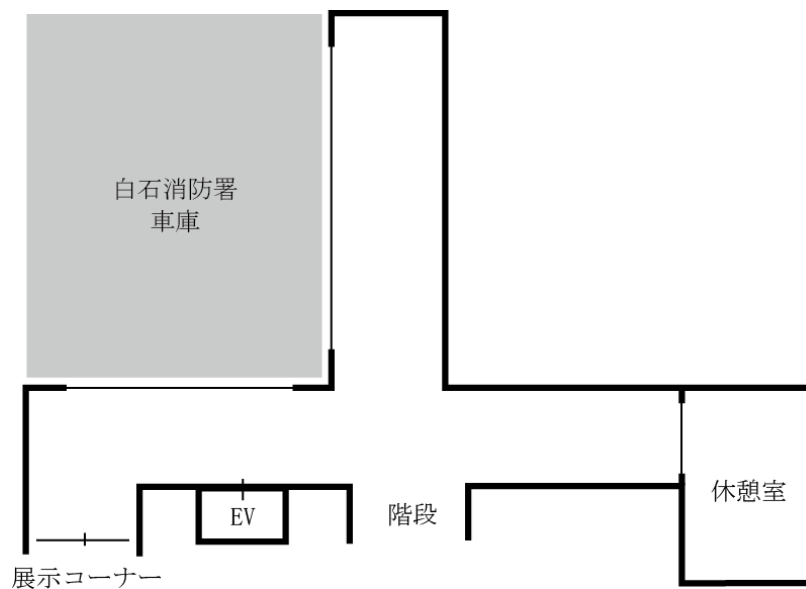
(3) 案内手順

展示物に関する説明が掲示されている。



12 その他（白石消防署の車両見学）

(1) レイアウト



(2) 体験方法

自由に見学ができる。



■ 各展示施設の質疑応答

施設、防災、火災、消防のしごと等の多種多様な質問が寄せられる。
関係機関等に確認し、最新の状況を伝える。

1 体験コーナーについて

(1) 地震体験コーナーの機械の揺れ幅は？

最大 60 cm くらい横に動いている。

(2) 煙体験コーナーの煙の成分は？

グリコール類及び精製水。この専用液に使用されているグリコール類は冷凍食品の保存、かまぼこなどの練り食品の乾燥防止、パンのつやだし、あるいは化粧品、医療品などに広く使用されている。

※ダイニチ工業株式会社 HP 抜粋

ポイント3：安全性に徹した専用液・人にやさしいスモーク

ポータースモーク専用液は、安全性の高い成分を使用しています。しかも不燃性で安心です。

- ポータースモーク専用液は、ポータースモーク内にある熱交換器に送り込まれて加熱された後、ノズルから空気中へ排出され、大気中の水蒸気と作用して白い霧を発生させる発煙剤です。
- 専用液の成分組成は、グリコール類、及び精製水です。
- 専用液に使われているグリコール類は、冷凍食品の保存、蒲鉾等練り食品の乾燥防止、パンの艶出し、あるいは化粧品・医薬品などに広く使用されています。安全性の高い成分です。

専用液の成分

- プロピレングリコール（食品添加用グレード）
- トリプロピレングリコール
- 1,3-ブチレングリコール（化粧品グレード）
- 精製水
- ごく微量の香料

2 センターについて

(1) どうしてこのような施設をつくったのか？

札幌市は、大きな災害が発生することが少なく、札幌市民は他の都市に比べて、防災意識が低いといわれている。

そのため、なかなか体験のできない地震や火事など、災害の模擬体験をとおして、災害発生時の正しい基本行動を身につけることができる体験型施設として当施設はつくられた。

(2) 1 番人気の体験は？

すべての体験コーナーが人気であるが、はしご車に乗る体験は年齢にかかわらず人気が高い。

防災センターの入口に展示しているはしご車は、2002 年（平成 14 年）まで札幌市の清田消防署で実際に使われていた本物のはしご車である。

また、消防の活動服を着て運転席に乗り、写真を撮ることができる。

(3) お客様の中で一番たくさん来る年代は？

一番多い年代は、大人（19～65 歳）である。

次に多い年代は、小学生である。

その他にも、保育園や幼稚園の園児、中学生、高校生、大学生、高齢者など、様々な年代が来館されている。

(4) この体験の中で一回に一番費用がかかるのは？

どの体験コーナーでも電気代や水道代などの費用がかかる。

特に煙避難体験コーナーの煙を発生させるために使用するスモーク液は非常に高価なもので、消耗品としては 1 番費用がかかる。

(5) 防災センターには、1日に何人くらいの人があるのか？

1日平均にすると約180人である。(年間約6万5千人/359日)
過去最多で1日約1,000人以上が来館した。

(6) 1年に何人くらいの来場者がいるのか？

年間約6万5千人が来館している。

(7) どのような仕事をしているのか？

地震や火災発生時の基本行動や対処法について、また災害の経験談を伝えている。

来館された方が、災害に遭遇した際に、災害時の正しい基本行動がとれるように、様々な情報を的確に伝えるよう日々心がけている。

(8) 入口にあるはしご車は実際に使っていたのか？

2002年(平成14年)まで清田消防署で使われていた30m級のはしご車である。

(9) 札幌市民防災センターは、なぜ消防署の隣にあるのか？

白石消防署が老朽化したため、2003年(平成15年)に再建設することとなった。

その際、地下鉄駅から近く、南郷通りという大きな通りに面した現所在地に、白石消防署とともに市民防災センターの建設も一緒に行うこととなった。

(10) 建設費用はいくらかかったか？

建設費用は白石消防署も含めて、24億8千万円である。

(11) どのようにしてはしご車を設置したのか？

はしご車を入れる為、特別な搬入口をつくり、そこから中に入れた。
(正面入り口から見て左側)

そして、展示しているはしご車は、平行移動もできる特性を持っているため、搬入した後、角度を調整し設置した。

(12) 防災センターは地震や火災に耐えられるのか？

地震においては、多くの人が集まる施設であるため通常の建物（マンション・ビル）の約1.5倍の耐震強度がある。

耐えられる震度はおよそ7である。

火災については、耐火構造であるが、火災を起こさないよう様々な配慮をしている。

(13) 防災センターの体験コーナーの種類は？

様々な体験コーナーがある。

2002年（平成14年）まで実際に使われていたはしご車の運転席に乗ることができるコーナーや3Dの映画を見る体験コーナーがある。

また地震体験、消火器の使い方を学ぶことができる体験もある。

この他にも、煙の中を安全に逃げる練習をする煙避難体験や暴風体験、救急体験がある。

(14) 防災センターの面積は？

防災センターの面積は、約540㎡である。

(15) 施設の中で体験するもの以外で特徴的なことは何か？

隣の白石消防署の車庫を2階から見るができる。
実際の消防車の出動の様子などを2階から見学できる。

(16) 今までの来館者数は？

2018年には、総来館者数100万人を突破した。

来館者数	達成日
20万人	2006年（平成18年）9月21日
30万人	2008年（平成20年）6月15日
40万人	2009年（平成21年）12月2日
50万人	2011年（平成23年）6月26日
60万人	2012年（平成24年）10月28日
70万人	2013年（平成25年）12月8日
80万人	2015年（平成27年）7月5日
90万人	2016年（平成28年）11月1日
100万人	2018年（平成30年）6月19日

(17) 防災センターのはしご車は、いつ納車されたか？

1987年（昭和62年）12月である。
車両の左前方に納車日が記載されている。

(18) はしご車の無線交信は、どこにつながっているのか？

防災センターに展示されているはしご車は、どこにも繋がっていない。
通常は指令センターと各消防署に繋がっている。

(19) 自主防災資機材はどのようなものが何種類くらいあるのか？

シャベルやハンマー、折りたたみ式担架など 14 種類の資機材を展示している。

【活動資機材の助成制度】

札幌市では、自主防災活動を支援するため、消火、救出、救護活動に必要な資機材のうち、基本的なものをセットにして、活動組織などを整備した町内会を対象に、1997年（平成9年度）から計画的に助成している。

【資機材の内容（1セット）】

消火活動用	<ul style="list-style-type: none"> ・組立式水槽 ・モンキーレンチ（消火栓開閉用） ・消火用バケツ
救助活動用	<ul style="list-style-type: none"> ・のこぎり ・おの ・ハンマー ・金てこ ・シャベル ・かませ木 ・ロープ ・ジャッキ ・折りたたみ式担架
救護活動用	<ul style="list-style-type: none"> ・救急セット
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルメット ・収納箱